

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 12 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600389		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ小森野		
所在地	福岡県久留米市小森野5丁目15番18号 〒830-0001 (電話) 0942-36-5761		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年12月18日	評価確定日	平成22年1月18日

【情報提供票より】(平成 21 年 12 月 2 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 21 年 10 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	12人
		非常勤	5人
		常勤換算	16.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての～ 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(225,000円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	400円	おやつ	円
	または1日あたり	円程度		

(4) 利用者の概要(12 月 2 日現在)

登録人数	15名	男性	4名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名				
要支援1	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.9歳	最低	69歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	行徳医院 / 首藤歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街のなか、ホームと道を挟んで小学校が隣接しており、環境に恵まれた場所にある。リビングは広く開放感があり、リビングから続くウッドデッキや庭先に干された洗濯物など、何気ない光景が心を和ませてくれる。利用者の状況変化に伴い外出が難しくなってきたり、日々の散歩や2ヶ月毎の計画立てでの外出、個別支援としての買物など、困難と諦めずに対応している。利用者の出来ることや出来そうなことを把握し、センター方式の様式を使用して情報の共有を行い、利用者の残存能力に働きかける支援が行われている。地域住民から野菜の差し入れを頂くなど、少しづつ地域との交流ができてきていることから、今後、近隣小学校や地域公民館等との連携・協力のもと、地域住民との相互交流への取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価をうけて、職員で協議して理念を作成したり、利用者と一緒に食事をとるなど、質の向上へ向けた成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審に伴い、全職員が自己評価を記入して管理者がまとめるなど、全職員がかかわった取組みがある。この過程において、職員一人ひとりが現状を考える機会となり、改善点についての協議の場を設けるなど、サービスの質の向上に活かす体制がある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	公民館長、地域世話係、地域包括支援センター職員、行政担当職員等を招いての2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況やホーム行事などの報告のほかに、委員より地域交流に関するアイデアが出されたり、地域行事の情報を得るなど、意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族面会時の声かけ、介護計画書の見直し時、その都度の電話連絡、ホーム便りの送付などを通じて、様々な説明や報告及び家族の意見や要望等の表出に努めている。出された意見等はカンファレンスで協議し、介護計画書に反映させるなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民からの野菜の差し入れや地域夏祭りへの参加、日々の散歩時の挨拶など、少しづつであるが、地域との交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	理念について協議を行い、「利用者の自立と 尊厳を守り、家庭的な雰囲気の中で温かい生活 を送るため、地域密着を目指します」という理 念を作成し、今年度も継続して理念について検 討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に理念を掲示しており、自然と目 につく工夫がある。朝礼時の理念の唱和を通じ て、理念の浸透を図る取組みがある。また、理 念は職員で協議して作成されており、継続して 理念について検討するなど、理念の共有化と実 践への取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域住民からの野菜の差し入れや地域夏祭り への参加、日々の散歩時の挨拶など、少しづつ であるが、地域との交流が行われている。		ホーム便りの近隣住民への配布が実を結び 始めたようです。近隣小学校や地域公民館等 との連携・協力のもと、更なる地域住民との 相互交流が図られるような取組みを期待しま す。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回の外部評価受審に伴い、全職員が自己評 価を記入して管理者がまとめるなど、全職員が かかわっての取組みがある。この過程におい て、理念の検討や利用者と一緒に食事をとるな ど、質の向上へ向けた成果が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況やホーム行事などの報告のほかに、委員より地域交流に関してのアイデアが出されたり、地域行事の情報を得るなど、意見交換が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政担当職員及び地域包括支援センター職員の参加が見られる。行政主催の勉強会への参加やその時々状況に応じた相談のほか、管理者の居住地の社会福祉協議会職員との連携などを通じて、質の向上へ向けた取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、グループホーム部会及びホーム内での勉強会を通じて学びを得ている。家族に対しては、契約時に説明を行うなど、制度の理解と普及への取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、介護計画書の見直し時、その都度の電話連絡、ホーム便りの送付などを通じて、様々な説明や報告が行われている。		ホーム便りの交付のみでなく、ご家族へ利用者一人ひとりの様子を知らせる担当職員からのメッセージを入れたり、写真を同封するなど、利用者の何気ない表情等をご家族へお知らせし、ご家族に今以上に感心を持ってもらうような働きかけや取り組みを期待します。
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、介護計画書の見直し時、その都度の電話連絡、ホーム便りの送付などを通じて、家族の意見や要望等の表出に努めている。出された意見等はカンファレンスで協議し、介護計画書に反映させるなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来4～5名の離職が見られる程度で、職員の異動や離職は少なく、利用者との馴染みの関係が構築されている。新しく職員が入職した場合は、3ヶ月間の試用期間を設け、先輩職員が指導に当たるなど、利用者考慮した取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、65歳定年を設けているが、その他の制限は一切設けていない。募集は法人本部で行い、その時々状況に応じて適切な人材を採用している。働きながらの各種資格取得に向けての支援が行われている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待や後見人制度等について、ホーム内での勉強会で取り組んでいるが、幅広い視点での人権についての取り組みはこれからである。		認知症高齢者の人権、その他幅広い視点での人権についての勉強会や運営推進会議等を利用した啓発活動など、職員一人ひとりの人権意識を喚起する取組みに期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修や勉強会の案内を掲示して希望を募るなど、参加の機会を確保している。また、月1回のホーム内での勉強会を開催している。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム部会への研修参加が見られるが、同業他事業所との職員レベルでの連携や交流などの取組みは、今後の課題である。		グループホーム部会での研修が単なる研修に留まることなく、他の事業所との交流や情報交換を通じて、職員一人ひとりの気づきやモチベーションを上げる機会となるような取組みを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学及び本人・家族との面談により得た情報をもとに、カンファレンスで協議し、入居判定を行うなど、円滑に馴染めるように支援している。新しい利用者に対しては、職員がコミュニケーションを密にとりながら、徐々に馴染めるような支援への取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のかかわりを通じて、精神的な面で感じ、学ぼうとする姿勢が伺える。職員は、利用者の笑顔と何気ない一言に癒されるなど、喜怒哀楽を利用者と共にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて、利用者の思い等を把握し、把握した内容は、センター方式の様式を使用して情報の共有が行われている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面談時に家族の意向の把握に努め、日々のかかわりを通じて利用者の思い等の把握に努めている。把握した本人・家族の意向や思い等をもとに、カンファレンスで協議し、介護計画書に反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎日の申し送り時に、利用者の状況の把握に 努め、カンファレンスにて協議し、見直しを行 い、計画作成担当者による介護計画書の再作成 が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	家族会時の駐車場の確保の為に地域農協や公 民館長等との連携、利用者の今までのかかりつ け医やリハビリ受診への対応、利用者の個別支 援としての買物など、柔軟な対応が行われてい る。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に今までのかかりつけ医とホーム協力 医療機関の利用について説明を行い、利用者・ 家族が入居後の主治医を選択している。今まで のかかりつけ医への受診は、基本的には家族対 応であるが、無理な場合はホームで対応するな どの支援が行われている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	平成21年10月からの法人移行に伴い、看取り を行わない方針である。契約時に、看取りを含 めて医療的な説明が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として、利用者の視線に合わせた 丁寧な声かけが行われていた。介護記録等は、 書庫にて適切に保管・管理されており、個人情 報に配慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を始めるタイミングや食事にかかる時 間、日中の過ごし方など、利用者一人ひとりの 生活パターンに応じた対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは法人本部の栄養士が作成し、ホー ムでの調理である。利用者の希望や旬の食材に よりメニュー内容を変更するなど、柔軟な対応 が行われている。キッチンで調理する際の音や 匂いが五感へ働きかけ、食事時間が楽しみとな るような工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は一日おきの入浴実施であるが、お風呂 の準備は毎日行い、利用者の状況や希望に応じ て柔軟に対応している。タイミングを見計らっ ての声かけ・誘導によりスムーズな入浴が行わ れている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	気候に応じた散歩、洗濯物たたみ、新聞読 み、新聞折り、個別支援としての買物、計算ド リルなど、利用者の出来ることやしたいことを 汲み取って支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	気候に応じた散歩、買物、地域行事の見学、 2ヶ月毎の計画立てたバスハイクなど、機会を 捉えての外出が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は、常に開錠されている。玄関ホールに センサーを設置しており、職員は、利用者の様 子を観察しながら、利用者の暮らしと安全を支 える取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	避難訓練時は、消防署職員から、避難方法や 避難誘導後の確認方法について指導が行われて いる。災害時等における地域との連携・協力体 制づくりへの取組みは、今後の課題である。		運営推進会議等を利用しての避難訓練への 働きかけや非常災害時の連絡体制の構築から 始められるなど、地域との相互連携・協力体 制づくりへの取組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは法人本部の栄養士が作成し、利用 者の希望や旬の食材によりメニュー内容を変更 しながらホームで調理している。食事摂取量・ 水分摂取量の把握を行い、利用者の状況によ り、きざみ食などの対応が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く開放感があり、自然光を採り 入れ、快適な空間となっていた。利用者 との楽しい会話や利用者の表情から、居心 地の良さが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の居室には、テレビ、位 牌、ベッド、整理棚、机、絨毯などが持ち込ま れており、人柄が伺える居室となっていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号